

1 本年度の重点教育目標

生き生きと自分らしさを発揮し、心豊かに学び合う子どもの育成

2 本年度の取組の重点

①確かな学びの実現	②豊かな心と健やかな体の育成
③自信と自立心を育む生徒指導の充実	④共に未来を生きる子どものために
⑤保護者や地域と共にあゆむ学校を目指して	⑥育てたい姿を具体的に共有する手立ての工夫

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 確かな学びの実現	基礎的・基本的な知識や技能の習得と思考力・判断力・表現力を育成する学習指導の改善・充実を通して、主体的・対話的で、深い学びの実現できたか。	b	「主体的、対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善の推進と、豊かな表現力や個に応じた教育活動の展開に努める。	A	A	共働き世帯が多く保護者が家庭学習を見守ることが難しいところもある。
② 豊かな心 健やかな体の育成	自己肯定感を高め、生き生きと自分らしさを発揮するとともに、思いやりの心や、自他を尊重する態度など、豊かな人間性を育む指導ができたか。	b	仲間との関わり合いや高め合う学習活動をさらに推進する。	A	A	
③ 自信と自立心を育む生徒指導の充実	自らの健康や体力づくりに関心をもち、運動に親しむ等、体力の増進を図る取組が推進できたか。	b	「なわとびチャレンジ」の実践の充実や「体力テスト」の結果に基づく体育授業の改善を図る。	A	A	
	ふれあいと、児童理解を基盤として、一人一人のよさや持ち味を發揮させる教育ができたか。	a	児童理解交流会による前職員による見守りの充実を図る。	A	A	
④ 共に未来を生きる子どものために	悩みや不安等、子供の内面に寄り添うとともに、発達支持的生徒指導を意識した対応に努めることができたか。	a	きめ細かな児童観察の継続、SCの連携した相談体制を継続する。	A	A	
	個々の児童のニーズに応じた、特別支援教育の充実を図ることができたか。	b	通常の学級における、特別に支援が必要な児童について、組織的な支援の一層の充実を図る。	A	A	
⑤ 保護者や地域と共にあゆむ学校を目指して	保護者や地域と連携した、今日的な教育課題への取組や、校務の効率化等、教職員の業務改善により、児童と向き合う時間の確保に努めることができたか。	a	地域や保護者との連携をさらに深めるために、懇談や参観の実施、地域や外部人材を活用した授業の実施に引き続き努める。	A	A	
	保護者や地域の方々との連携を深め、開かれた教育課程の理念を踏まえた、「コミュニティ・スクール」の取組を推進することができたか。	a	保護者や地域の人材を活用し、授業のサポートや児童の見守り活動を引き続き行い、地域との連携をさらに深める。	A	A	AED講習会は町会でも行っており大事な取組であることから継続した方がよい。
⑥ 育てたい姿を共有する手立ての工夫	「教育目標の達成の姿」について、達成目標や指標、基準を学校・児童・保護者で共有し、児童の成長を見取る根拠ある評価を推進できたか。	a	「子どもの育ちアンケート」を活用し、半期ごとの評価・改善を継続する。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。